

## 小展示

# もたいたけし 茂田井武 没後50年展

2007年5月3日（木）～2007年7月30日（月）



茂田井武(もたいたけし)は、50年前、48歳で亡くなる直前に描いた「セロひきのゴーシュ」(宮澤賢治／文 福音館書店「こどものとも」2号)をはじめとし、絵本や子どもの本の挿絵や装丁まで、数多くの絵を子どもたちに向けて描き続けました。その作品は、多くの子どもたちに受け入れられ、今も多くの絵本作家に影響をあたえつづけています。

パリに渡り、放浪生活を送って帰国後、はじめは大人向けの雑誌の絵などを手がけていた茂田井は、結婚後、三人の子どもに恵まれ、子どもの本に関わるようになります。その期間はおおよそ15年ほどですが、戦中・戦後の混乱期、茂田井は、子どもたちに寄り添い、元気づけるような絵を描き続けました。また、当時相次いで創刊された子ども向きの雑誌にも、毎月、おどろくほどたくさん絵を描いています。

本小展示では、その作品を、当館所蔵の原画『きつねのおつかい』(新美南吉／著 福地書店 1948年)、未刊行の『新美南吉幼年童話集』(新美南吉／著 1948年制作)とあわせてご紹介します。

\*\*\*\*\* 茂田井武（もたいたけし）\*\*\*\*\*



(JULA 出版局刊  
『茂田井武 古い旅の絵本』  
より転載)

1908年（明治41年）9月29日、東京・日本橋の大きな旅館に生まれる。子どもの頃から絵を描くことが得意だった。23年、15歳のときに関東大震災で生家が全焼。2年後に、母を病気で亡くす。中学卒業後、美術学校を目指す。19歳の時に父が再婚。入試に失敗し、研究所で絵を学びながら、アテネ・フランセでフランス語を学ぶ。30年、シベリア鉄道でヨーロッパの各国を経由してパリへ。食堂などで働きながら、画帳や、絵物語などを描く。33年に帰国。車掌や温泉旅館の番頭など数々の職を転々とした後、「新青年」など成人雑誌の挿し絵を描く。

41年、はじめての絵本『ナニナニ絵本』を出版。子どもの本に関わるようになる。42年、結婚。「コドモノヒカリ」を皮切りに、子ども向けの雑誌の絵を描きはじめる。44年、北京派遣軍に召集され入隊。45年東京大空襲で画帳、スケッチなどを焼失、終戦を迎える。46年復員。出版の自由化とともに装丁、挿絵、絵本の依頼がきはじめ、当時、続々と創刊された子ども向けの雑誌を中心に、数多くの子ども向けの絵をてがけるようになる。三人の子どもたちに大きな刺激を受け、仕事としてだけでなく、日常の生活の中でも描くことに没頭した。子どもの本の画家としての評価が高まり、充実した仕事を続けていたが、52年、持病の気管支喘息と肺結核が悪化。自宅療養しながらも、病床で描き続ける。

1956年11月2日死去。享年48歳。

## 子どもの本の世界へ ～茂田井武 初期の絵本～

戦争が激しくなり、「新青年」などこれまでの大人向けの雑誌の挿絵の仕事が少なくなった茂田井は、1941年(昭和16年)の『ナニナニ絵本』を皮切りに、自分の中の暗いものを見せたくない、と拒み続けてきた子どもの本の仕事を手がけるようになります。再び召集される1944年(昭和19年)までの10冊ほどの絵本の仕事の中でも、子どもの本と関わった出発点として、自己の画風を模索していく姿がうかがえます。



### <主な展示資料>

\* 書名・著者名・出版社名・出版年月日・請求記号の順に表示

『ナニナニ絵本』 [茂田井武/絵] 博文館 1941/10/15 N411015/4/1

『センチノガン』

国分一太郎/著 || 茂田井武/画 帝国教育会出版部 1942/1/30 (新日本幼年文庫) N410720/1-(9)/

『ボクノウミ』 佐藤義美/文 || 茂田井武/画 博文館 1944/9/15 N440915/1/

『パリーノコドモ』 茂田井武/文・絵 まひる書房 1946/8/10 N460810/3/

## イメージを絵にのせて～最も盛んな制作時期 1948 年頃の作品から～

終戦を迎え、東京に戻った茂田井は、喘息に苦しみながらも、おびただしい数の挿絵や絵本の仕事を手がけるようになります。最も盛んな制作時期ともいえる 1948 年頃には、茂田井のイメージが絵に表現され、「茂田井武の絵」が確立していくのをうかがい知ることができます。



### <主な展示資料>

#### 『おさるのしゃしんや』

奈街三郎／文 Ⅱ 茂田井武／絵 川流堂書房 1948/5/15 (ゑばなし文庫 1) N480515/2-1/

『ねずみ花火』 柴野民三／著 Ⅱ 茂田井武／絵 1949/10/20 新子供社 N491020/3/

#### 『(長編漫画物語)三百六十五日の珍旅行』

茂田井武／著 大日本雄弁会講談社 1948/12/31 (講談社の漫画) N481231/2/

## 子どもへのまなざし～茂田井武と子ども向け雑誌～

1947年(昭和22年)の創刊号から表紙絵を飾った幼年向けの童話童謡雑誌「こどもペン」(新子供社)、1950年(昭和25年)から亡くなるまで作品を発表し続けた絵雑誌「キンダーブック」(フレーベル館)をはじめ、当時、戦後の復興とともに次々と創刊された子ども向け雑誌に多くの絵を描きました。子ども向けの創作作品や翻訳作品、童謡や演劇シナリオ、子どもたちの投稿詩など、その種類は多様で、マンガのようなコマわりの絵、タブロー画のような一枚絵など、作風や技法も様々です。また、広告や目次の枠絵なども、読者の目をひきつけます。

当館の所蔵雑誌にも、39タイトル(254冊)に茂田井の作品がみられ、短い期間に驚くほどたくさんの作品を描いたことがうかがえます。ここでは、ユーモアあふれるもの、子どもたちの暮らしや生活を描いたもの、世界の姿を伝えるものなど、バラエティに富んだテーマや視点のものをとりあげました。そこには、戦争が終わり、あたらしい時代を歩き出す子どもたちの背中を押す、茂田井のあたたかなまなざしが感じられます。



### <主な展示資料>

※雑誌については、作品名・著者名・出版社・出版年・雑誌名・巻号の順に記載

- 「シナノマチ」小田岳夫||茂田井武/画 帝国教育会出版部 1942/2/1 「コドモノヒカリ」6巻2号  
「百万びきの動物」茂田井武/[扉画] 大日本雄弁会講談社 1947/9/1 「幼年ブック」1巻8号  
「こぶたのピイちゃん」小沢三千夫||茂田井武/え 新世界社 1948/2/1 「こどものはた」3巻2号  
「おさるのたこあげ」なまちさぶろう||もたいたけし/画 新子供社 1949/1/1 「こどもペン」3巻1号  
「[広告]明治キャラメル」茂田井武 集英社 1954/5/1 「おもしろブック」6巻6号  
「かそうぎょうれつ」茂田井武/え フレーベル館 1956/2/1 「キンダーブック」10巻11号

## 物語る絵～日本の創作作品や翻訳作品への挿絵～

茂田井の絵と、ストーリーテラーとしての力は子どもの本の世界で評価され、様々な日本の児童文学作家の作品や、翻訳作品にもその生き生きと物語る絵を見ることができます。

持病の喘息と肺結核が悪化しての闘病生活の中でもその意欲は衰えることがなく、「賢治のゴーシュでしょう。それが出来るならばくは死んでもいいですよ」(松居直『絵本の時代に』より)と引き受け、病床で描きあげた宮沢賢治「セロひきのゴーシュ」(1956年)は、代表作としてあげられる一冊です。

※書名・著者名・出版社名・出版年月日・請求記号の順に記載



### <主な展示資料>

- 『(童謡集)赤い鳥小鳥』北原白秋／著 茂田井武／なかのえ 国民図書刊行会 1948/12/30 N481230/4/  
『ひろすけ童話選集 5』浜田広介／著 茂田井武／絵 大日本雄弁会講談社 1950/12/25 N480530/1-5/  
『みどり色の時計』小川未明／著 茂田井武／かざりえ・さしえ 土曜文庫 1953/8/10 N530810/1/  
「セロひきのゴーシュ」  
宮沢賢治／原作 佐藤義美／案 茂田井武／画 福音館書店 1956/5/1 『こどものとも』2号  
『グリム物語』奈街三郎／著 茂田井武／装幀・さしえ 東光出版社 1955/11/30 N551130/4/

## 新美南吉作品の挿絵

「ごんぎつね」などの作者として知られる、新美南吉(1913-1943)。

庶民の暮らしや、身近な動物たちをとおして、心の通い合いをストーリー性豊かに表現したその物語世界を見事に描いた茂田井の絵を、当館所蔵の原画でご紹介します。

\* 原画は展示替えを行います。

① 5月3日～29日    ② 6月1日～29日    ③ 7月1日～30日



『きつねのおつかい』

### 『(幼年童話)きつねのおつかい』 原画

(新美南吉／著 || モタイタケシ／絵 福地書店 1948/12/5 N481205/4-(1)/)

①

表紙<未使用>

目次I ・ 目次II

さとの はる 山の はる

二ひきの かえる (1) (額装)

かにのしょうばい (1) (額装)

あし

ひよりけた (1)

ひよりけた (2)

ひよりけた (3) <未使用>

ひよりけた (4) <未使用>

ひよりけた (5)

ひよりけた (6) <未使用>

ごぞうさんのおきょう<未使用>(額装)

②

表紙 (額装)

こどもの すきな かみさま

二ひきの かえる (2)

あめだま

きつねのおつかい (1)

かにのしょうばい (2) (額装)

ひとつの ひ

おうさまと くつや (1)

<未使用>

おうさまと くつや (2)

<未使用> (額装)

おうさまと くつや (3)

はな

③

口絵 <未使用> (額装)

きょねんの 木

おとした 一せんのおかね

一ねんせいたちと ひよめ

きつねのおつかい (2)

(額装)

うられて いった くつ

ひろった らっぱ

かなづち (1)

かなづち (2)

かげ (1)

かげ (2) <未使用>

「新美南吉幼年童話集」 原画 新美南吉／著 1948年制作 未刊

①  
らっぱ  
たけのこ

②  
ながれほし  
うぐいすぶえをふけば(1)

③  
うぐいすぶえをふけば(2)  
ながれほし

\*\*\*\*\*

本小展示に際し、JULA出版局のご協力をいただきました。

下記HPでもご紹介いただいています。

<http://jula.hs.shopserv.jp/hpgen/HPB/entries/109.html>

\*\*\*\*\*

■茂田井武没後50年展 展示リスト(解説付)を販売中

価格 200円(お申し込み方法 : 当館カウンター・電話・メール)

※郵送の場合は、資料費 200円+郵送料 120円+梱包料 30円 = 計 350円 が必要です

2007年度は下記の小展示を予定しています

- ・4月1日～4月30日(終了) 台湾絵本の、今。
- ・5月3日～7月30日 茂田井武 没後50年展
- ・8月2日～10月29日 講談社の絵本に見る漫画(仮題)
- ・11月1日～2月14日 大阪の児童文化(1)(仮題)  
(2月の特別整理期間を含む・終了日については予定)
- ・3月1日～3月30日 ニッサン童話と絵本のグランプリ優秀作品展